

資料

昭和女子大学社会人メンターネットワーク の活動と学生参加状況

小森 亜紀子¹

The Operation of Showa Women's University Mentor Network
And the Participation of the Students

Akiko Komori

1. はじめに

昭和女子大学では、2011年度より「夢を実現する7つの力（グローバルに生きる力／外国語を使う力／ITを使いこなす力／コミュニケーションを取る力／問題を発見し目標を設定する力／一歩踏み出して行動する力／自分を大切にする力）」を学生が大学時代に身につけられるよう体系的なキャリア教育を推進している²。

学生は、一般教養科目ではキャリアデザイン科目（1～4年次）を履修し、専門教育科目では、学科のそれぞれの特性に合ったキャリアデザイン・ポリシーの履修モデルに基づく、各自の目標を設定し、知識・技能を段階的に身につけることができる。

それらのキャリア教育の一環として、社会人メンター制度が構築された。社会人メンター制度は、多様な職歴や社会経験を持つ幅広い年代の社会人女性にメンターとして登録して頂き、学生の「夢の実現」への助言をして頂くものである。2011年4月に大学ホームページで募集を開始したところ、新聞やテレビに取り上げられ³、同年5月の第1次締切時には478人の応募者があり、当初100人程度の規模の予定であったが、約300人のメンターにご登録頂くこととなった。その後、2011年秋募集、2012年春募集を経て、現在336人の社会人女性がメンターとして登録している。OGの数は40人で11.9%（有効%）で、今まで本学とかかわりの無かった方が大勢を占める。

社会人と学生の交流を大学がサポートする仕組みは全国の大学で初めてである。また、通常メンター制度というところある程度の期間固定的な関係でメンターがメンティーをサポート

1 筆者は、2011年10月より昭和女子大学社会人メンターネットワーク事務局として、社会人メンター関係のイベント開催、及びメンターと学生の面談の日程設定などのマッチング業務に携わっている。

2 昭和女子大学「昭和女子大学のキャリアサポートシステム」p.1。

3 WEB版朝日新聞ジョブラボ「社会人メンター募集」

<http://joblabo.asahi.com/articles/-/1859.2012.9.10>。読売新聞「女子学生へ社会人の目で『助言を』」2011年5月11日朝刊、NHK首都圏ニュース845、2011年5月11日。

トするが、本学の取り組みの独自性は、固定的な関係では無いこと⁴と、学生が自ら話を聞きたいメンターをキーワードなどで検索して個別メンタリングを申し込めるところである。メンターカフェでは、参加したいテーマの回に学生が参加を申し込み、メンターフェアにおいても、学生が話を聞きたいメンターのプロフィールを見て選び話を聞きに行くというように学生に選択権がある（個別メンタリング、メンターカフェ、メンターフェアの内容については後述する。）

本稿では、社会人メンターとして登録して下さっている方の属性や特徴を明らかにし、その活動への学生の参加状況を精査するとともに、その効果を考察し、より良い活動や運営方法に結び付けたいと考える。尚、本稿は社会人メンターネットワーク運営委員会の承諾を得て、社会人メンターの皆さまにお知らせをした上で執筆するものである。

2. 研究方法

本稿においては、学生が大学ホームページから社会人メンターを検索するのに用いるプロフィール画面の情報を基に、社会人メンターがどのような方々なのかを分析をしている。その他、事務局が知りえた個人情報は用いないものとする。

学生の参加状況については、個別メンタリング・メンターカフェ・メンターフェアへの参加人数の推移を1ヶ月ごとに集計し、メンター制度の展開の過程を追うことにする。

社会人メンター制度の効果については、個別メンタリング・メンターカフェの事後フィードバックシートから考察するが、まだ質的分析をするに足るケース数の蓄積には至っていないため、記述の域を出るものではないが、明らかな傾向は読み取れると考える。将来的にはKJ法を用いて分析を進めてゆきたい。

尚、量的分析にはSPSS19を使用する。

3. 社会人メンターネットワークの構成員

(1) 年代別登録メンター数

社会人メンターの年齢を年代別に見ると、図1のようになり、40歳代が一番多く、その次に多い30歳代とあわせると67%を占めるものの、様々な年代のメンターが登録していることがわかる。学生は自分と近い年齢のメンターの話も、人生経験豊富なメンターの話も何うことができるということである。登録メンターの平均年齢は42.9歳で、最年少は23歳、最年長は86歳である。中央値は42歳で、標準偏差が9.837とばらつきが大きい。

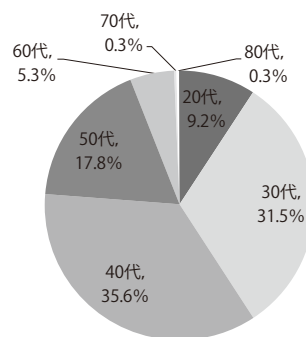


図1 社会人メンターの年代別割合

4 学生は1人のメンターと年間3回まで、1年間に合計20回の個別メンタリング申し込み可能。同一のメンターと4回目以降の面談を希望する場合は、申請と審査が必要となる。

(2) 職業経験と現職かどうか

社会人メンターの職業経験の有無と、現職かどうかを見ると図2、図3のようになる。職業経験のある方が98.2%で、職業経験の無い1.8%の方は専業主婦である。

また、現職である方が87.5%を占め、仕事をしている方が多いことがわかる。

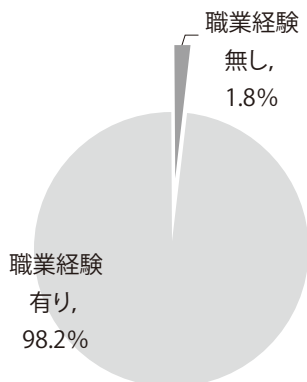


図2 職業経験の有無

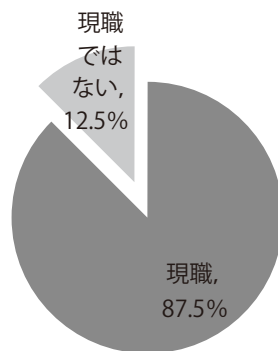


図3 現職かどうか

(3) 資格取得と学びなおし経験

社会人メンターの特徴として職業経験者がほとんどであることに加え、資格を持っている方が89.3%と多いことが上げられる (図4参照)。その資格の種類は70種類を超え、一人で複数の資格を持っている方も多い。またその他の特徴として、社会人になってから学びなおしをしている方が43.3%も存在することである (図5参照)。生涯学習への意欲が読み取れる。

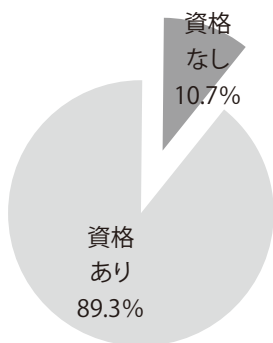


図4 資格の有無

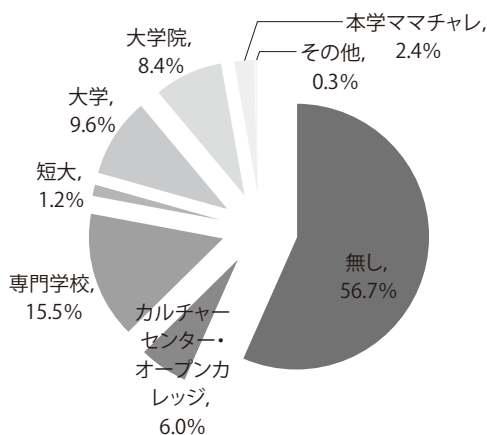


図5 学び直し経験の有無

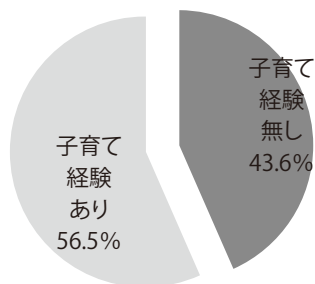


図6 子育て経験の有無

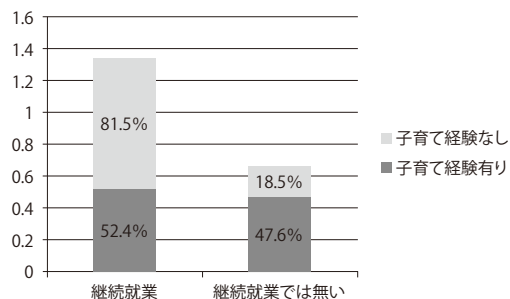


図7 継続して就業しているかどうか

(4) 子育て経験と継続就業

メンターの子育て経験の有無は、図6のとおりで、半数強が子育て経験がある。子育て経験と継続して就業しているかどうかの関係をみると図7のようになり、子育て経験のある方は継続就業しているか中断しているかが半々なのに対し、子育て経験の無い方は81.5%が継続して就業している (X^2 検定で有意差 $p < 0.001$)。

4. 社会人メンターネットワークの活動内容

前述したように、学生が社会人メンターと交流を持つ機会は現在3種類ある。学生とメンターが1対1で話をする個別メンタリング、毎回テーマを設定し3人のメンターと学生10～20人がグループで話をするメンターカフェ、8～12人のメンターにご参加頂き、学生が話を聞きたいメンターのところに行って話を聞くメンターフェアである。以下、それぞれの取り組みについて詳細を記す。

(1) 個別メンタリング

① 内容

学生が大学ホームページの社会人メンターネットワーク検索サイト（在学生のみ閲覧可能）から、職種・年齢・その他のキーワードで会いたいメンターを探し、個別メンタリングを申し込み、事務局が学生とメンターのマッチングを行い日程を調整し、メンターにご来校頂き、1回約45分、メンタリングルームでメンタリングを受ける。終了後、学生とメンターはフィードバックシートを事務局に提出する。個別メンタリングは2011年度後期から開始した。

② メンター参加状況

個別メンタリングの学生参加状況は後述するが、学生から個別メンタリングの申し込みが入ったメンターの年齢階層は図8のとおりで、151件の申し込みのうち、1人のメンターに複数回申し込みが入っているため、119人のメンターに個別メンタリングを担当して頂いた。

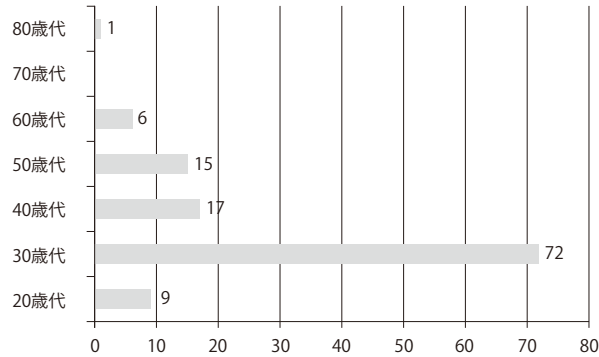


図8 申込対象メンターの年齢階層（合計 119 人）（単位：人）

(2) メンターカフェ

表1 メンターカフェの開催日時とテーマ、参加学生数

(単位：人)

日時	回	テーマ	参加学生数
2011/6/11 (土)	1	子どもを育てながら自分らしく働く！	4
7/23 (土)	2	教える仕事、伝える仕事で自分らしく働く！	6
10/8 (土)	3	スペシャリストとして自分らしく働く！	14
10/22 (土)	4	好きを極めて仕事にする！	14
11/12 (土)	5	起業、フリーランスで自分らしく働く！	6
11/26 (土)	6	語学を活かしてグローバルな企業で働こう！	16
12/10 (土)	7	自分をプロデュースする！	13
2012/1/28 (土)	8	国際的な仕事で自分らしく働く！	13
4/28 (土)	9	人材を育てる仕事で自分らしく働く！	11
5/12 (土)	10	総合職・事務職の本音を聞いてみる！	21
5/26 (土)	11	子どもに関連した仕事で自分らしく働く！	6
6/9 (土)	12	国際的な仕事で自分らしく働く！	19
6/23 (土)	13	マスコミの仕事について聞いてみる！	14
7/7 (土)	14	美容・ファッション業界の仕事について聞いてみる！	18
参加学生数合計			175

メンターカフェは2011年度前期から開始し、各回テーマを設定し、事務局からメンターに参加依頼をし、学生は事前申し込みをして、3人のメンターと10～20人の学生がグループで話をする。14回のメンターカフェに、延べ41人のメンターに参加頂いた⁵。

土曜日の13:30～15:00に開催しているが、学生からの質問が続き、毎回30分以上延長する結果となっている。個別メンタリングを申し込むには勇気があるが、メンターカフェは自分の聞きたい話が明確な学生に効果的であり、学生の間に着着してきた観がある。

5 同じメンターに複数回ご参加頂いたケース、お仕事でやむなく欠席になったケースがあるので、延べ41人となっている。2012年度前期のメンターフェアの参加予定メンターは、各回8人であった。

(3) メンターフェア

① 内容

メンターフェアは2012年度前期からの新しい取り組みで、平日の11:30～13:30に大学のオープンスペースで開催している。メンターが1人ずつテーブルにつき、学生はメンターのプロフィールを見て、話をしたいメンターのところへ行き、複数の学生と一緒に話を伺うという形式である。お昼休みの時間帯を利用して、学生が気軽に参加できるように、申し込み不要・出入り自由のオープンな雰囲気で開催している。参加学生を把握するために、カードリーダーで学生証のデータを記録している。開催日時は、表2のとおりである。

表2 2012年度前期メンターフェア開催日時

	日時	参加メンター	参加学生
1	4月6日(木) トライアル	5人	17人
2	4月26日(木) 第1回	7人	63人
3	5月9日(水) 第2回	8人	21人
4	5月21日(月) 第3回	8人	58人
5	6月6日(水) 第4回	9人	76人
6	6月27日(水) 第5回	8人	59人
7	7月4日(水) 第6回	8人	143人
8	7月11日(水) 第7回	8人	114人

② メンター参加状況

メンターフェアは、個別メンタリング、メンターカフェとは異なり、メールによる一斉配信により参加者を募集してメンターに自発的に参加申し込みを頂いている。2012年度前期は、61人のメンターがご参加下さり、2012年度後期は84人のメンターに参加頂く予定になっている。

(4) その他の活動

① 授業ゲストスピーカー

大学2年次または3年次前期に必修のキャリアコア科目を中心に、授業のゲストスピーカーとしてメンターを招き、2012年前期は9人のメンターに参加頂いた。

② メンターの集い

2011年度は、12月10日(土)夜に開催し、114人のメンターが参加した。2012年度は9月27日(木)夜に開催し、51人のメンターが参加した。

③ 新設学部について学長と語る会

2012年3月12日(月)と3月31日(土)に開催し、それぞれ21人、17人のメンターが参加した。

④ スペシャルメンターカフェ for メンター

メンターから要望のあったメンターのためのメンターカフェを3月17日(土)に開催し、年長のメンター3人のお話を伺う機会を作った。参加メンターは19人であった。

⑤ 自主活動

2012年度前期から開始したメンターの自主活動は、主催を希望するメンターから社会人メンターネットワーク運営委員会に申請書を提出して頂き、審査の上開催するもので、メンターへの告知のみ社会人メンターネットワーク事務局が行うが、それ以外は主催メンターが担う。主催メンターには、事後報告書・収支報告書をご提出頂いている。開始以来2回開催されたが、好評で参加したメンターの満足度は非常に高かった。

(5) 活動参加メンターの年齢階層

個別メンタリング・メンターカフェ・メンターフェアに参加したメンターの年代別延べ人数は245人で、年代別に見ると図9のようになる。30歳代43.7%、40歳代30.2%、50歳代14.7%となっているが、60歳代・80歳のメンターも活動に参加頂いている。

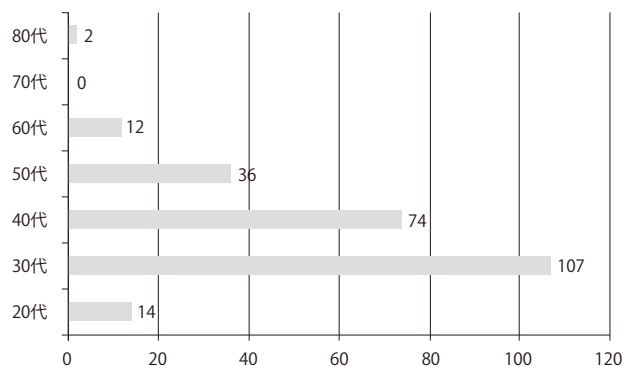


図9 年代別活動参加延べメンター数(合計245人)

5. 学生参加状況

2011年度前期のメンターカフェ、2011年度後期の個別メンタリングと活動を開始してきた社会人メンターネットワークだが、2012年度前期にメンターフェアを開始すると同時に、2年次必修キャリアコア科目⁶の履修学生が、メンター関係のプログラムに参加しレポートを提出すると当該科目の評価において平常点として加点することとした(以下、加点制度と呼ぶ)。この加点制度により、より多くの学生がプログラムに参加するようになった。個別メンタリング・メンターカフェ・メンターフェアそれぞれ異なる傾向で参加学生が増加した。以下、個別メンタリング・メンターカフェ・メンターフェアへの学生の参加状況を述べてゆく。

6 キャリアコア科目は、2011年度入学生からを対象に開講されており、1年次後期必修の「実践倫理(キャリアデザイン)、2年次～3年次前期選択必修の①「女性の生き方と社会」、②「女性とキャリア形成」、3年次・4年次後期選択の「企業と社会のルール」の全てを指す。本稿での2012年度2年生のメンタープログラム参加を加点対象とする科目は、①②である。

(1) 個別メンタリング

個別メンタリングの申し込み件数と申し込み延べ学生数は、図10、図11のように、必修キャリア科目の加点対象となった2012年度前期から飛躍的に伸びている。しかし、きっかけは加点のためであっても、その後複数回申し込み延べ学生が多く見られる。

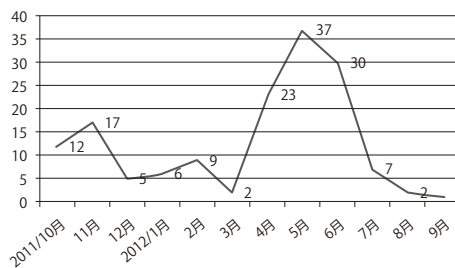


図10 個別メンタリング申し込み件数

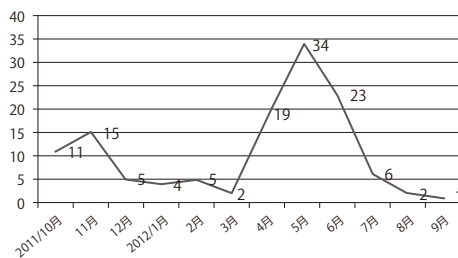


図11 個別メンタリング申し込み学生数

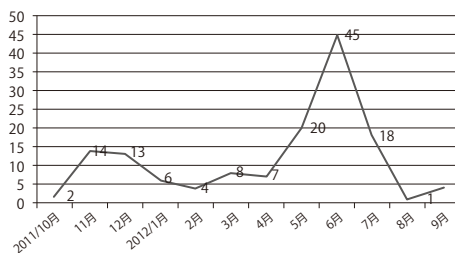


図12 個別メンタリング実施回数

個別メンタリングの実施回数は、2012年度前期の試験前の6月に集中しているが、試験期間中にも数多く実施された(図12参照)。学科学年別にみると図13のようになり、加点対象の学生が多いが、特に管理栄養学科の学生が突出して多い。学年別でみると(図14)、将来の進路について考え始める3年生が最も多い。

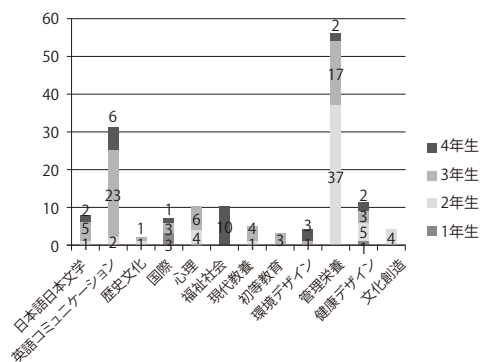


図13 申し込み学生所属学科

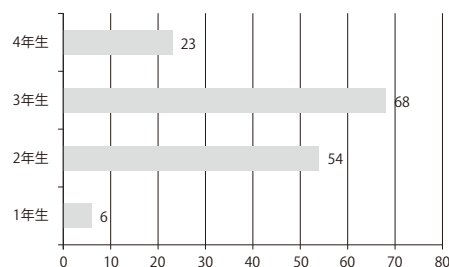


図14 学年別申し込み件数

(2) メンターカフェ

メンターカフェの実施概要と参加学生数は前述したが、参加リピーターが増えていること、メンターカフェ参加がきっかけとなって個別メンタリングを申し込み延べ学生が出ていることが特徴である。学科学年別累積参加学生数は175人で、学科別では、英語コミュニ

ケーション学科が53人で30.3%を占める(図15参照)。

学年別にみると、個別メンタリングと同一に3年生が44%で一番多い。メンターカフェはテーマが設定されているので、ある程度将来の方向性を考えている学生が参加していると考えられる。

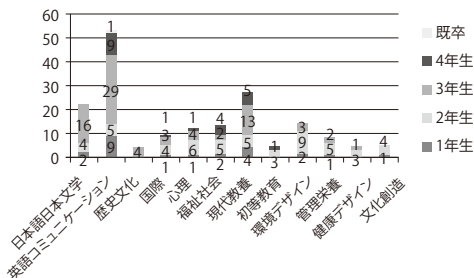


図15 メンターカフェ学科学年別累積参加学生数

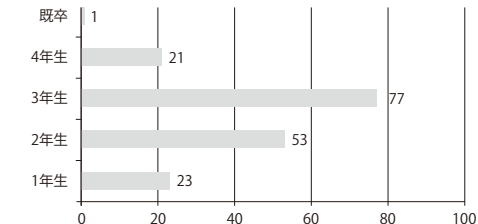


図16 メンターカフェ学年別累積参加学生数

(3) メンターフェア

メンターフェアは、昼休み時間に開催され、参加申し込み不要・出入り自由なために、一番参加のハードルが低く、加対象学科の2年生が圧倒的多数を占める(図17、18)。2012年度前期は、水曜日開催が多かったため、前後の時間帯に授業がある学生がお昼休みに集中する傾向にあり、2012年度後期は曜日をずらして開催する予定である。

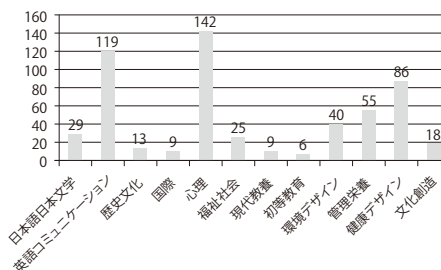


図17 メンターフェア学科学年別累積参加学生数

各回の参加学生数をみると(図19)、加対象終了前の前期末に集中しているが、リピーターも増えてきており、学生の間に着定した観がある。2012年度後期は、各回の参加メンターを、前期の8人から10人に増やし、更に参加学生が集中する学期末の2回は12人のメンターに参加頂く。

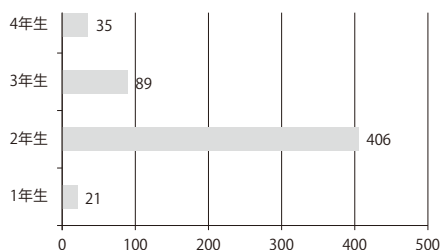


図18 メンターフェア学年別累積参加学生数

(4) 個別メンタリング・メンターカフェ・メンターフェアの合計参加学生数

個別メンタリング・メンターカフェ・メ

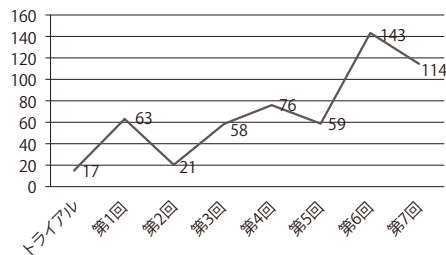


図19 メンターフェアの参加学生数推移

ンターフェア、それぞれの参加学生は、図20、図21のとおりで、個別メンタリング参加学生（延べ）148人、メンターカフェ148人、メンターフェア551人で、合計874人の学生が何らかのプログラムに参加している。キャリアコア科目履修学科・学年の学生が多いが、後述する学生の感想から、それ以外の学生にも効果的な制度となっていることが伺われる。

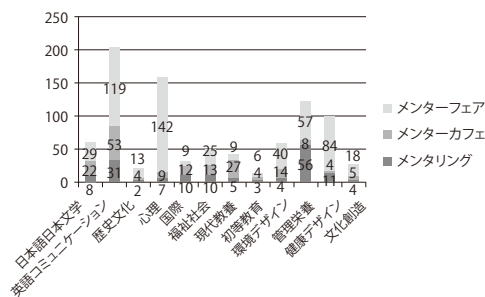


図20 プログラム別学科別参加学生数

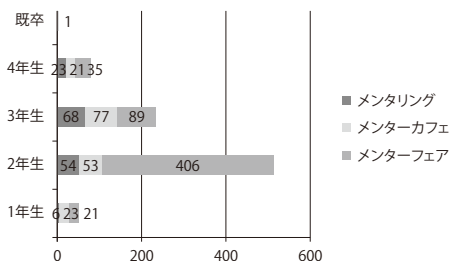


図21 プログラム別学年別参加学生数

(5) キャリアコア科目加点対象学生について

2012年度2年次選択必修キャリアコア科目履修学生は合計524人で、加点対象者は368人（70.2%）であった。各授業で同じように告知をしているが、学科により参加状況が異なる。これは学科の特性による要因があると考えられる。管理栄養学科のように、将来の職業がある程度絞られている学生は、管理栄養士の資格を保持し、多様な職業についているメンターの現場の声を聞く機会を得て、複数回参加したり、友人に薦めたりして参加回数が増えている。

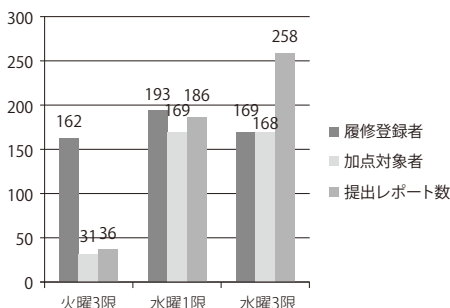


図22 キャリアコア科目加点対象学生の動向

6. 考察

(1) 学生・メンターの感想

個別メンタリング実施後、学生・メンター双方にフィードバックシートを記入してもらっている。メンターカフェ終了後には、2011年11月より学生に感想文を提出してもらっている。メンターフェアについては現時点ではフィードバック方法が無いが、加点対象学生が科目担当教員に提出したレポートの分析も加えてゆきたいと考える。

① 個別メンタリング後の感想

i) 学生の感想

個別メンタリングを受けて「有意義だった」と回答した学生が100%であった。

以下、抜粋を記述する。

- ✿ 幸せでした！前向きな気持ちになった。
- ✿ 自分の人生が、メンターの助言によって、変わっていきそうな予感がしている。
- ✿ 両親、友達、先生にも相談できなかったことを初めて話した。自信がついた。
- ✿ 視野が広がり、人生の選択肢が広がった。
- ✿ 生きていく上で大切なことを教えて頂いた。
- ✿ まだまだやりたいことで形に出来ていないことが沢山あると感じ、ACTIONを起こしたくなった。
- ✿ すごくマイナス思考になっていたが、前向きに考えることを教わった。これから頑張ろう！と強く思った。
- ✿ 管理栄養学科に入って良かった。いろいろな職業の可能性に気付いた。
- ✿ 背中を押してもらった。もっとみんなメンタリング受けた方がいいよと言いたい。

ii) メンターの感想

メンターには各プログラム実施にあたり、多大なご協力を頂いている。

特に管理栄養士のメンターは、個別メンタリングを10回以上担当して下さった方が2人、9回が1人、6回が1人と、毎週のようにご来校頂くケースがあったが、快く引き受けて頂いている。以下、メンターの感想の抜粋を記す。

- ✿ 自分も学生時代を振り返る良い機会となり、将来に向けてマインドを高めることができている。
- ✿ 自分がいろいろ気付き、勉強になった。
- ✿ 父母に対する感謝の気持ちから皆勤賞を取っているという話に感動した。
- ✿ フレッシュな学生に会って初心に返った。
- ✿ 将来のことをしっかり考えていて、楽しみ。
- ✿ 話をしている学生のモチベーションがあがっていくのを感じた。
- ✿ 自分が学生の時に、この制度があったらと思う。
- ✿ 学生は、情報がありすぎて迷っていると感じた。
- ✿ 学生は、意識は高いが、知識はまだない。
- ✿ 内向きでモヤモヤしていたので、外に向いて一歩行動してみようとした。

② メンターカフェ参加学生の感想

メンターカフェに参加した学生の感想もたいへん肯定的である。以下抜粋を記載する。

- ✿ 業界、専門分野、経験について伺えて、たいへん有意義だった。
- ✿ 子育てをしながら、仕事をすることを学んだ。
- ✿ 結婚相手の選び方について学べた。
- ✿ 社会人のお話を聞いて、焦らなくて良いのだとわかった。
- ✿ 勇気がわきました。

- ❁ 普段の生活の中から、自分を見つめ直していこうと思った。
- ❁ 視野を広げて行動できるようになりたい。
- ❁ 伺ったお話を活かして、充実した学生時代を過ごそうと思った。
- ❁ 自分の将来が楽しみになった。
- ❁ 生きていく上でのビジョンや目標が見えてきた。
- ❁ 考え方を変えるきっかけになった。

(2) 社会人メンターネットワーク制度の効果

① 学生にとっての効果

i) 情報の獲得⇒

学生は就きたい職業や希望のライフスタイルを送っているメンターから、現場の生の情報を得ることができる。個別メンタリングの場合、事前にメンターに送付する学生の自己紹介文を参考にして、情報収集し資料を準備してメンタリングを実施してくれるメンターが多い。

ii) 目標の発見⇒

将来について、及びそのために学生時代にしておくべきことにつき助言をもらい、具体的な目標を設定できるようになる。

iii) キャリアデザイン視線⇒

一生という長い時間軸で、自分のキャリアをとらえることができるようになる。

iv) 多様なライフコースを知る⇒

身近には中々存在しない社会人女性の話を聞くことにより、人それぞれの人生があり、どんな経験も無駄にならないことを知ることができる。

v) エンパワメント⇒

個別の事情について話を聞いて頂いた上で、背中を押して、応援してもらえる。

② メンターにとっての効果

i) 新しいネットワークの構築⇒

多様な年代・職業の女性メンター同士、大学というフィルターが入ることによる人間関係のリスクを軽減した、フラットな関係性を獲得できる。

ii) look back、summarize、stocktaking、rediscover⇒

学生と交流し、助言をする過程で、自分の人生を見つめ直し、棚卸しをし、将来を見直す機会となる。

iii) 経験の伝承⇒

女性として、一人ひとり異なる経験知を若い世代に伝承することで、社会における未来の女性の立場に影響を与えることができる。メンター内でも、経験の伝承・エンパワメント効果が期待できる。

7. おわりに

(1) 総括

昭和女子大学社会人メンターネットワークは、2011年4月からメンターカフェのみ試験的に開催し、2011年10月から事務局が開設、個別メンタリングを開始し本格的に始動し、2012年4月にはメンターフェアの開催・加点制度開始という新しい展開を見せている。

最初の半年に活動に参加した学生は10人であったが、1年半が経過した2012年9月末時点で874人の学生が活動に参加するようになった。授業にゲストスピーカーとして参加したメンターのお話を伺った学生を合わせると1400人以上の学生が何らかの形でメンターと接点を持ったことになる。加点制度や友人からの口コミ情報をきっかけに参加した学生が主体的に参加するようになってきている。

一方、何らかの形で学生にかかわって下さったメンターは延べ260人を超える。メンターの理解と協力無くては成り立たない制度であることに間違いなく、大学はメンターの支援を推進力に変えていかななくてはならない。

全国初の取り組みである本制度を更に押し進め、効果を測定し、フィードバックして革新してゆく循環を確立し、継続することが、本学の責務であると考えられる。

(2) 今後の課題

社会人メンターは、原則的にボランティアベースで、ミッション・パッションを持つ女性の集団である。第一の課題は、その方々が、経験・スキル・ヴィジョンの学生への伝承を継続して下さるモチベーション維持のために、昭和女子大学社会人メンターネットワークが魅力ある展開をしていくこと、前進と活性化のためのアイデア創造と実行である。

第二には、学生の多様なニーズにあったメンターに参画して頂くように運営をしていくことで、各学科のキャリアデザイン・ポリシーに沿った社会人メンターの活動参加を企画、制度の補強をはかっていく必要がある。

第三に、効果を定量的・定質的に実証・公開し、評価を真摯に受け止めて、反映していくことである。本稿では活動の現状報告のみに終わっているが、今後は統計的分析を加え、更に研究を推進することを、筆者の今後の課題とする。

<参考文献（アルファベット順）>

Crone, Wendy C (2011), *Mentoring today and into the future*, MRS BILLETIN Vol.36, <http://www.mrs.org/bulletin.2011.12.21>.

昭和女子大学キャリアデザイン委員会 (2012) 「昭和女子大学のキャリアサポートシステム」。

昭和女子大学キャリアデザイン委員会「キャリア体系化」推進チーム (2012) 「昭和女子大学 キャリアデザイン・ポリシーとキャリア科目の体系」

WEB版朝日新聞ジョブラボ(2011)「社会人メンター募集」<http://joblabo.asahi.com/articles/-/1859>.
2012.9.10.

(こもり あきこ 現代ビジネス研究所助教 女性文化研究所特別研究員)